

Ⅲ 東京都 板橋区医師会

医師会だからできた事！！ できる事！！

在宅療養ネットワーク
懇話会



地域の多職種をまとまれるような
環境を作る

主治医・副主治医制



500名以上の会員から成る会
地域診診連携 整備

後方支援病床の設置



かかりつけ医の負担軽減
住民の安心確保

*後方支援協力病院が区内に増加中

正確な地域医療・
介護資源の把握



住民に必要な情報を収集・発信
情報提供することで、
みんながメリットを感じられる
拠点(医師会)への信頼と安心感

退院～退院後まで継続支援



スクリーニングシートを活用し
退院時支援・退院後支援に円滑につなげる

Ⅲ 東京都 板橋区医師会

医師会の力！！

地域と多職種で繋がる

在宅療養ネットワーク懇話会

多職種の世話人で構成
2010年3月より 4ヶ月おきに懇話会を開催
10職種以上が参加し、話し合う
各職種が当番で独自の懇話会を企画、開催する

● 2年半をかけて世話人全職種が各職種独自の在宅療養ネットワーク懇話会を主催してきました

- 第1・2回 板橋区医師会
- 第3回 板橋区歯科医師会
- 第4回 区内訪問看護ステーション
- 第5回 板橋区薬剤師会
- 第6回 板橋区・介護職・区内介護施設・包括センター
- 第7回 区内病院連携室

主たる
目標は



Ⅲ 東京都 板橋区医師会

中心が医師会だと多職種が受け身になりやすい

→ ネットワークに自主的に参加し

各職種が自分で多職種へ理解と連携を促す

→ **職種間パワーバランスを自動的に調整する**

災害対策 → 行政の管轄・病院や各事業所は個別で備える

→ **行政と地域の多職種の情報共有と調整役になる**

行政との連携 調整役

→ 行政と協働で行う事・医師会ができる事・

多職種ができる事 を 整理し 行政に情報共有する

→ **地域目線での 効率的連携体制の調整**

療養相談室など医療機関から直接 地域窓口に繋がる

→ 専門多職種は患者の為に連携することが得意

→ **多職種にとってつながりやすいシステムを構築**

Ⅲ 東京都 板橋区医師会

板橋区医師会の優れている点

- 医師会が一丸となって取り組み続けている
- 住民目線での活動が盛ん
- 多職種に医師会は敷居が高い事を自覚した
多職種・多様な事業所が関わりやすい事業展開
- 消防や災害対策等
行政とも連携しやすい切り口でのアプローチ

IV 福岡県 宗像医師会

むなかた地区の医師会 (宗像市・福津市)

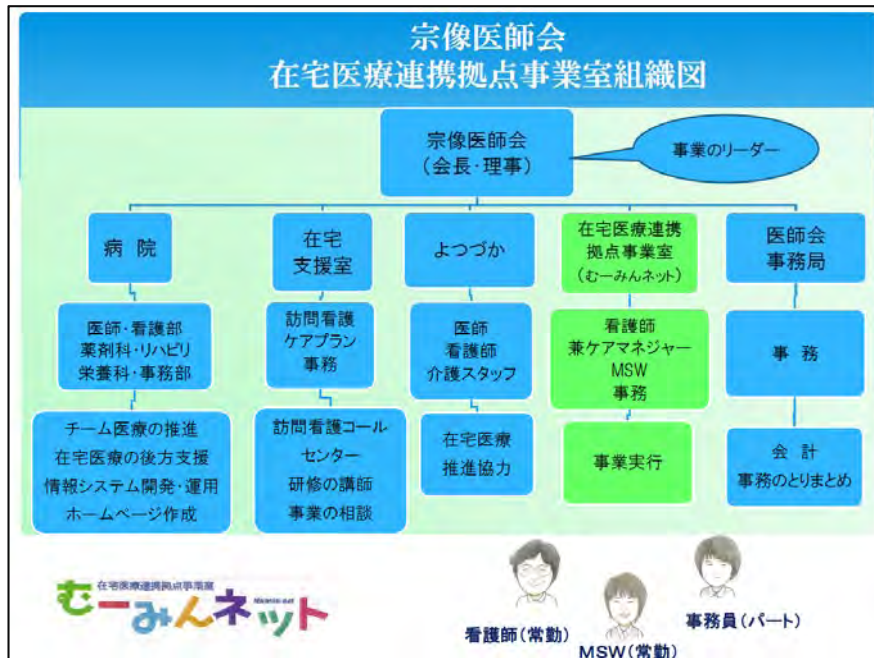
地域特性：

国民皆保険の前身である、定例(じょうれい)という互助システムがあり、
住民と専門職間の互助意識が高い地域

宗像医師会の特徴：

医師会立病院を保有し地域支援病院に認定済
地域の求められる
医療・介護・福祉・保健の資源を 保有

IV 福岡県 宗像医師会



定例委員会の開催

プロジェクト委員会

担当理事・訪問看護師・病院職員・ケアマネジャー・老健看護師・医師会事務局・拠点スタッフ等

毎月開催

拠点事業運営委員会

医師会・歯科医師会・薬剤師会・行政（宗像市・福津市）保健所 訪問看護師・ケアマネジャー・学識経験者等のメンバーで構成

年4回 開催

平成24年度 在宅医療連携拠点事業 北九州ブロック活動発表会資料。P4,P7.

http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/pdf/renkeikyoten/2013/201301_02_block/10090255.pdf

- 医師会内事業所間の密な連携→ 地域住民へ直接的な支援
- 地域の行政や保健所・市自治体・専門職能団体との連携
→ 地域の連携システムにより
包括システム構築によるマクロな住民への支援

IV 福岡県 宗像医師会

医師会だからできた事！！ できる事！！

主治医・副主治医制

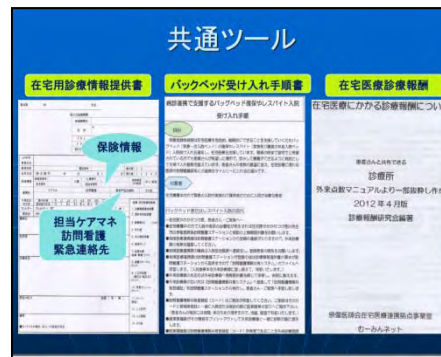
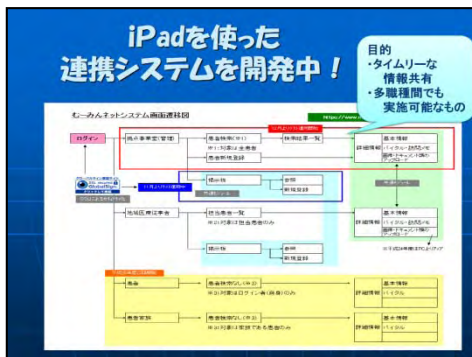
医師会病院に
後方支援病床の設置

みんなが
協力できる
システムが
必要

多職種で吟味検討し
ツール作成

地域の共有資源活用に関する
マニュアル作成

○後方支援ベットシステムが他市にも広がっている



在宅支援ネットワークマニュアル

- 薬剤・医療衛生材料供給システム
- 在宅用診療情報提供書
- バックベッド・レスパイト入院受け入れ手順書
- 災害時のマニュアル

等掲載